

科目名	法律事例研究Ⅱ	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			法律学科	■必修 □選択	
			学科	□必修 □選択	
英文表記	Legal Cases StudyⅡ	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中		
ふりがな	さとう ひろとし・あきやま えいいち	実務家教員 担当科目		修得単位	2 単位
担当者名	佐藤 寛稔・秋山 栄一	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	日常生活の中で起こる事例に潜んでいる法的問題の研究を通して、憲法、刑法の主要 2 法についての理解や問題意識を高めるとともに、そうした問題を自ら考えることができるようになる。				
到達目標	・前期或いは1年次に学習した法律事例研究Ⅰについての知識を異なる観点から分析できる。 ・社会現象を法的な視点で見ることができるようになること。 ・卒業試験を見据えて、法学部生として、2年次以降の学習習慣が確立できるようにすること。				
授業概要	この授業では、憲法、刑法について、それぞれの分野ごとにひとつの大きなテーマを対象にして、それに関連する法の内容やポイントを掘り下げて解説していきます。身の回りにある題材を通して各法分野に興味を持ってもらい、今後の学びにつなげていってもらうことを目標にしています。みなさんが憲法、刑法で学習している内容が、実社会でどのようなかたちで現れているのかをイメージし、法律問題として考えていただけるようになってもらいたいと思っています。				
授業計画					
第1回	ガイダンス： 刑法1 刑事法とはどのような分野か、その概要について				
第2回	刑法2 刑法とはどのような分野か、その概要と罪刑法定主義について				
第3回	刑法3 刑法総論① 構成要件該当性 ～「刑法の定める犯罪の要件に合致する」とは				
第4回	刑法4 〃 ② 違法性 ～「違法と適法の限界」とは				
第5回	刑法5 〃 ③ 責任 ～「非難することができない」とは				
第6回	刑法6 刑法各論① ～生命などの個人を守ろうとする刑法について考える				
第7回	刑法7 〃 ② ～社会、国家を守ろうとする刑法について考える				
第8回	まとめと中間試験				
第9回	憲法1 憲法は誰が守るべきルールか？				
第10回	憲法2 外国人の人権① 外国人が享有できる人権				
第11回	憲法3 外国人の人権② 外国人が享有できない人権				
第12回	憲法4 表現の自由① 表現の自由はどこまで可能か？				
第13回	憲法5 表現の自由② NHK にどうして受信料を払わなければならない？				
第14回	憲法6 司法権① 司法権の範囲 定義上、裁判所が対処できないもめごと				
第15回	憲法7 司法権② 統治行為について				
第16回	定期試験				
授業時間外の 学習	前期或いは1年次に学習した法律事例研究Ⅰの内容との関連性を意識しながら、授業で扱ったテーマについて、毎回復習をきちんと行うこと（2時間程度）。				
履修条件 受講のルール	必修科目ですので、該当する学生は全員履修になります。適宜資料を配布しますが、事前に連絡がなく欠席した学生には、原則として配布しませんので、友人同士でコピーするなどしてください。				
テキスト	憲法、刑法の授業で使用している教科書。必要に応じて、レジュメ等を配布します。				
参考文献・資料	六法は必携。				

成績評価の方法	【中間試験＋定期試験＝100% 刑法・憲法、それぞれ 50%の評価になります】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。
オフィスアワー	佐藤寛稔 毎週火曜日 11:00～12:00 および金曜日 13:00～14:00 秋山栄一 毎週月曜日 14:40～16:10 および水曜日 14:40～16:10 なお、上記時間帯であっても所用により不在の場合があります。これら以外の日時であっても、研究室に在室していて可能であれば、随時対応します。
成績評価基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	法は社会のルールですから、さまざまな社会現象から無関係に存在しているものではありません。皆さんが授業で学んでいる「法」が、生活の身近なところで具体的にどのように存在し、機能しているのかを理解し、法学部でのさらなる「学び」につなげていくことを期待しています。